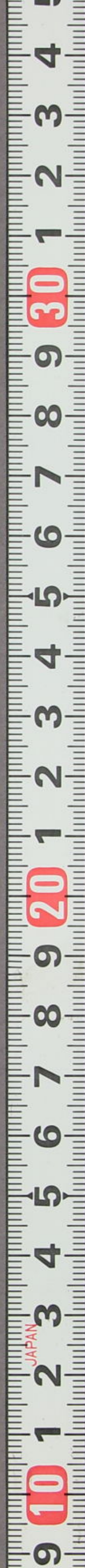




露芝

五編



霍之

百賀山家、雨、

兼、中、足、入、

ほ、き、い、ま、け、も、抱、く、火、桶、多、
松、兄

田、也、畑、や、山、の、中、り、ほ、き、
卓、池

雪、園、う、り、雨

水、鶴、い、ま、を、松、は、ひ、き、と、あ、ら、は、る、
士、朗



晴島秋のそよもてと鳴てある 雲の国
いつても山はたよよほとさけ一之
の秋は早瀬のかる朝日の中 伯先

尾花崎より過る山はかきほくす
徳り人の結縁よとをむしりこれとに
清中しとを清堂のつとむるを梨

道まゝを佛のうまのひる 士朗
生るしとすくふ世は 松兄

田切川の水のうら 増と野

小田栞子舟あり 遊戯宗てし 花叔
ほくす次やほくす 山泉
青あらし 菽木の上は 萩の 山泉
此二句春雨をみたり 山泉

馬乳の原

尾桐子

寛正初見草地の句ありささうがふ
略きり

弟三人くく料の祝の表れあるを一齋小
松もやりぬさ押と光子奇すい 又
あゝあゝ

ら保いせぬに祝明く子ほさけり 士朗
時多形ひし雲に残りやうも 巨桐 巨柗

遠望山寺

庭掃ふ来ふとくしと閑居鳥 卓池
閑居鳥自れやうも音らぬへ 松兄

弓矢の澤に飯田より一里余下
かきあそりまてむらひ出て

雲霧の頃々々川やほきり 蕉雨
山路来て見るのまありく若葉が 崇北
猿人と歌をあるる 閑居鳥 岳輪
麦よりや五毛と物春戸より 李云
田植して朝う保知 たる小家りま 星巴

○右賀子頭よりとくはるれ日記の花散り
等子めふり川一とて白紙の何と云入る
人し許より鬼一と言御也

○崇北浜河、隅田川よりと視を分ちてまなぬ
若よいちもやくおびりたる

○岳轆上人ハ馬ヲ教へて志里に候りせん
尾張の国より三取と云ふ事ありぬ

兼一の月の事記

させとも事しよ御人
おそまといとい春に山の不
管のの言り思ふちしむを
かきしの事

卯月九日ハ兼一主人

四月十一日

大久保に遊ぶ園中ありしに我れ時とて
人も年よれ初〜〜〜
はるよ書けり

風城に時雨をばこ〜〜〜
士朗

比岩小人も年よ〜〜〜
松見

又

系猫よかろ〜〜〜
壺伯

古き心〜〜〜の〜〜〜

其原や何と〜〜〜
士朗

伏屋に残る〜〜〜
蕉雨

年あひめて〜〜〜
岳轆

抱へておる七巻〜〜〜
卓池

世に中絶梅乃白ひ〜〜〜
松兄

ほろり〜〜〜と春雨降る
壺伯

衣ぬとらふそおもはるる
いささゆきもや乙姫の宮
笠の葉も着の常衣打もひ
雪よかそつる君は是 跡
年の内に春は来り馬の上
つり名残もどん福宗のこ
白路の富貴はくやに月おて
雲は青く居るもり 秋

九 誥
朗 兩 輅 兆 兄 池 誥

古ひよし住ぬ捨さるる路の庵
湖水のおもてちりもあ
あまも我端はすくは朝は
蛙つゝおす一はくしはや
家白髪新に能くくまはりて
母の棧場有るは昔は
の條に子もあすは持せり
古乃其蚊のいゝと鳴

伯 兄 池 輅 兩 朗 兆 伯

石明の東に雲が消え去りて
小萩ももはくはるり引る
這ふも虫も水け自らも草も
定ふも虫も水け自らも草も
風が吹くも水け自らも草も
袴のふも水け自らも草も
大徳寺も水け自らも草も
ゆふも水け自らも草も

誥 伯池兄轡兩朗誥

魚は水に居るが如く
水も魚を養ふが如く
雲は空に居るが如く
空も雲を養ふが如く
萩は土に生るが如く
土も萩を養ふが如く
草は土に生るが如く
土も草を養ふが如く
虫は草に食むが如く
草も虫を養ふが如く
水は魚を養ふが如く
魚も水を養ふが如く

伯轡兄朗兩兆

飯田百首巻以

十日ありて又も一帯は
こゝの柳よあそぶ野山か
土朗 岳輪

大空よまのひよりありは
お山お雨よや越えんほ
こゝ月かりさほやほ
こゝおや従おわりの水迫
素舟 梅江 九鶴 蛙村

をかしくも淋しくも有か
徐效

羽白く路の月おをわく藤おく
おもくけあるもあら御ま

初夏はほろり月やおも
馬おるま乃る夕髪のおる早苗が
園崎の橋より長き四月の
竹も木もなくて涼しや月お
まおに鈴の音おす富る丸語

陶器

風船や馬の竹りも新築うみ 松尾

風船よまきちふさかりぬ新築山 土屋伯

吹みよーいふいよて

管の吹みよさ解てをせしー 土朗

山よ手残りけてまきくもほらぬ 卓池

一の瀬

一の瀬、水鶴も鳴らぬ四月が 花叔

燕よお巢作くる山路の四月が 三都良

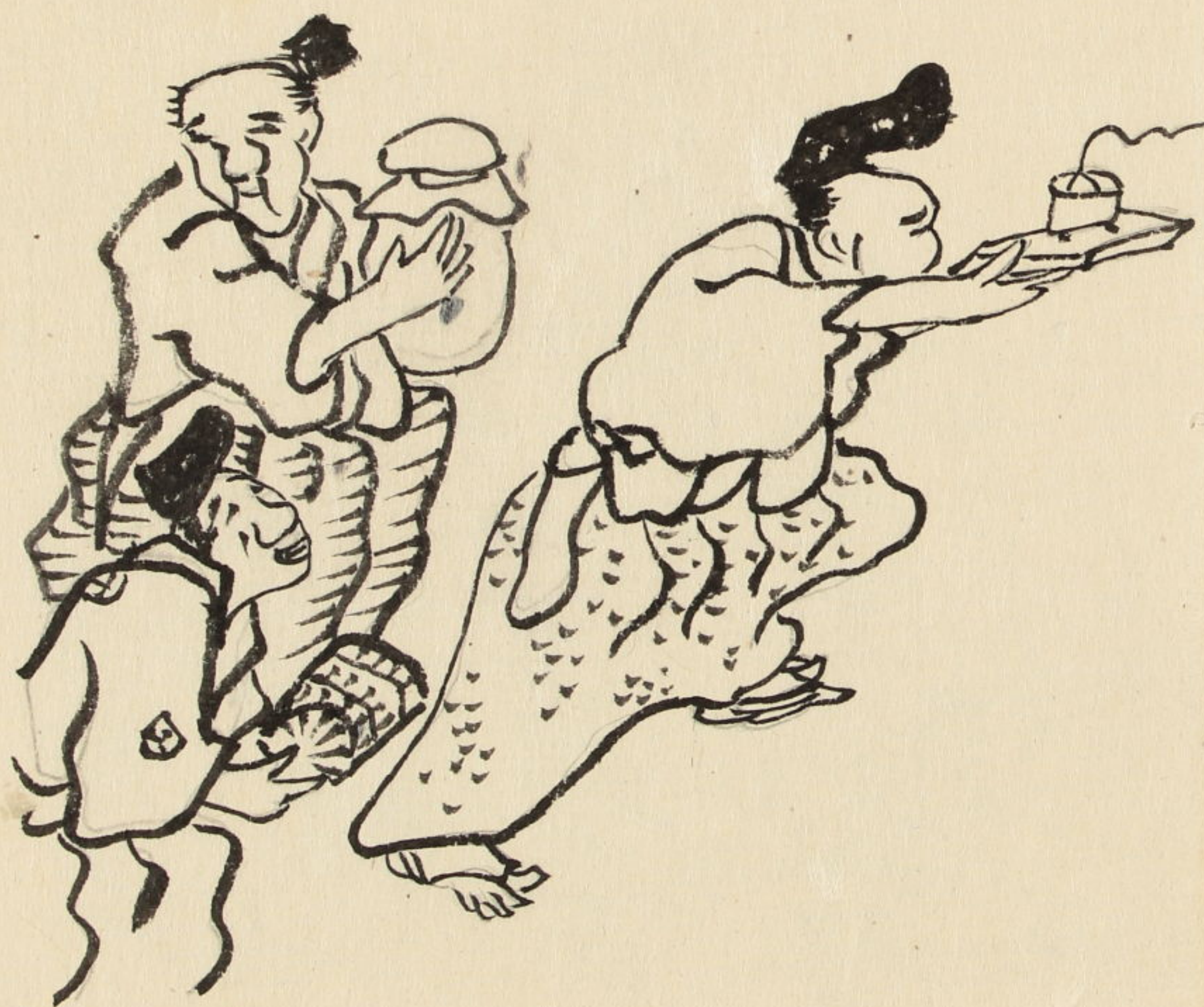
大平よ山中

管や山ほらぬ閑居多 士朗

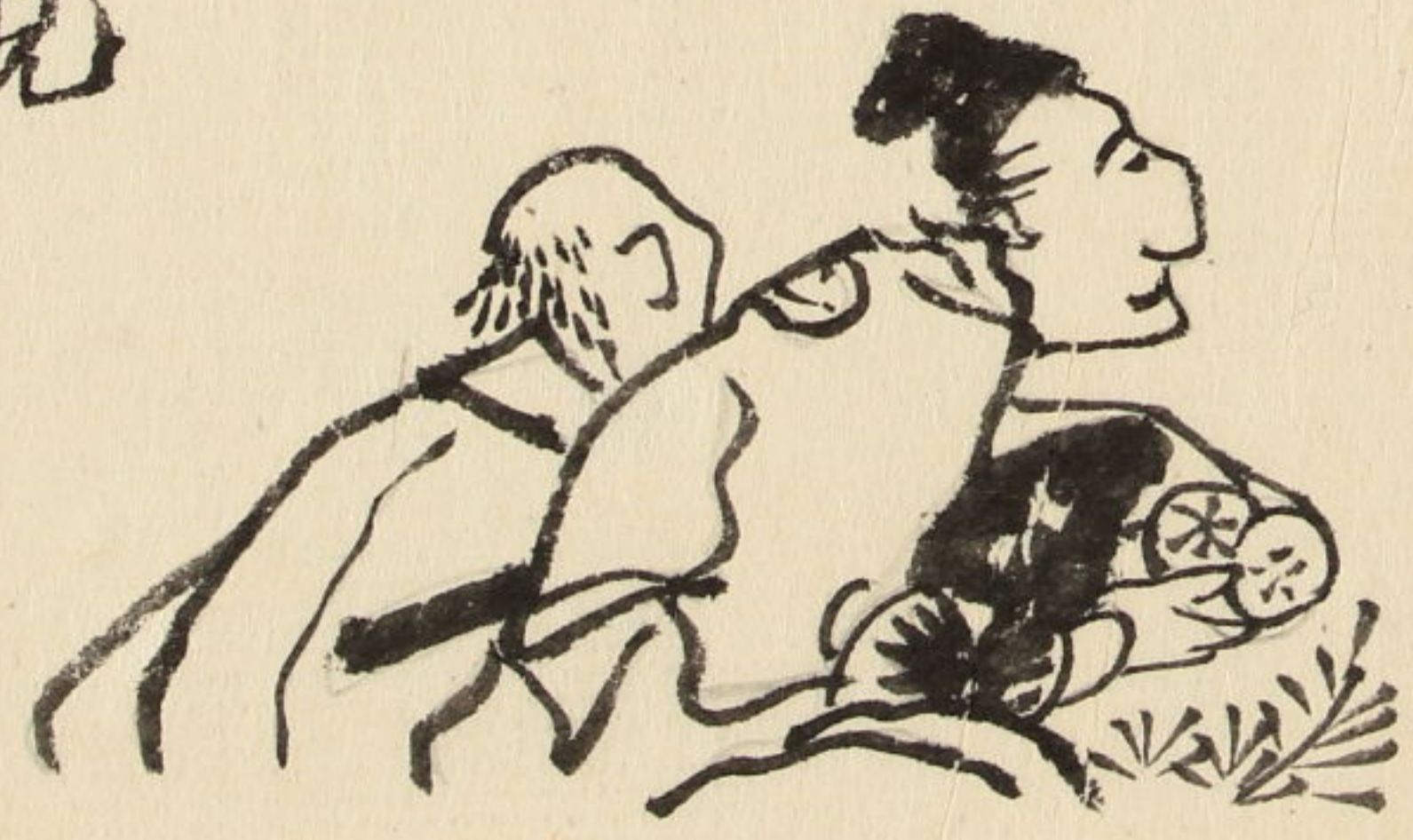
と聞て困み人くふあれり

お解てお後のそらや概の空 岳輪

夏知ぬ概のちかまぬ言ふも 蕉雨



霍芝集大尾
於榮賀之
榮兆英親



享和元年辛酉年四月

明治十七年の五月廿一日、東京の
信長、この紙に「横濱」の
ありと「徳島」のありと
二人、この紙に「見」の
あり

如子



